

前回の議論の概要

1 都道府県の医療計画の策定状況、課題

(指標の選定)

- 都道府県、医療圏がどのような特性を持っているのか、地域の全体像がわかるようなサマリーを作るための指標の選定が重要ではないか。
- 目標の方向性が示されるような指標を選定することが重要ではないか。
- 今後の人口変化を医療圏別にサマライズし、患者数の変化を予測した上で、医療圏別の指標を考えていくことが必要ではないか。

(データベース、データブック)

- まずは既存統計等から医療計画策定や評価に必要なデータが自動的に提供されるような環境を整えることが重要であり、厚生労働省が事業として定期的にデータを出していくべき。
- データベース、データブックには、救急搬送に係るデータも可能であれば掲載すべき。
- 掲載するデータの表示形式（人口 10 万あたり等）を統一することが必要ではないか。また、他との比較を容易とすることを検討すべきではないか。
- 都道府県から、統一の様式でデータを集めることについても検討すべきではないか。

(データを活用した医療計画の策定)

- それぞれの指標に関して、専門家等に問いかけ、目標を設定していくことが重要なのではないか。
- データベースを作るだけでなく、それを医療計画にどう反映させるか、体制も含め、明示していくことが必要ではないか。
- データベースを作成した上で、関係者に対して研修を行い、それぞれの地域の関係者が自分の地域の課題を明確に意識することが必要ではないか。
- データを基に地域の医療提供体制を検討する際には、個々の医療機関や医師等の同行に関わる問題であることから、一般化された議論では割り切れない部分があることを念頭に置いておくことが必要ではないか。
- 地域の医療課題から導き出される施策と、医療計画に記載する内容にはギャップが生じる。そのギャップを埋める過程を公開の場で議論してい

くことが重要なのではないか。今後の高齢化を踏まえると、在宅医療の指標や計画が最もそうした課題を抱えているのではないか。

（在宅医療、介護との連携）

- 介護との連携をどう図るかが今後の医療計画策定に当たって重要ではないか。
- 在宅医療の指標については、介護等のデータも併せて見ていくことが重要ではないか。
- 肺炎や脳梗塞等今後課題になっていく疾病等に焦点を当てて、ナショナル・データベースを活用し、在宅の指標まで併せて見ていくのがよいのではないか。

2 今後 PDCA サイクルを効果的に機能させるための方策

- ・ 施策の進捗評価のための適切な指標
 - ・ 施策の進捗評価を行うための体制
 - ・ 施策の進捗が不十分な場合に的確な原因分析を行うための方法等
 - ・ 必要に応じて施策の見直しを行う場合
 - ・ 施策の見直しに際して、より具体的かつ効果的な施策を記載するための方策
-
- 都道府県単位で医療計画の策定、評価をどのように行っていくのかについて、より具体的な指標を出していく必要があるのではないか。
 - 進捗評価に当たっては、基準を設けて、項目ごとに自己評価し、更に外部評価を受けるなどのプロセスを検討すべきではないか。
 - 都道府県の衛生研究所や都道府県内の大学等の役割も考える必要があるのではないか。

前回の宿題事項について

- 1 都道府県の医療計画において、人口推計がどのように活用されているか。
- 2 都道府県等に対して行われる研修の体制や内容
- 3 地域医療再生計画等における施策の進捗の評価について
- 4 医療計画策定のための資料集について（松田構成員）